

第3回せんだい農業園芸センター拠点B運営事業者評価委員会 議事概要

日 時 令和7年9月9日（火）13：00～14：40

場 所 仙台市役所表小路仮庁舎 経済局作業室

出席委員 6名：阿部祐子、伊藤秀雄、伊藤房雄、庄子真岐、高橋俊彦、水野由貴
（五十音順, 敬称略）

事務局 経済局農林部農林企画課

内 容 1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

（1）応募事業者によるプレゼンテーション

資料1

（2）合議

資料2

（3）最優秀提案の選定について

4. 閉会

要 旨

1. 委員会の開催について

委員6名全員の出席により、「せんだい農業園芸センター拠点B運営事業者評価委員会設置要綱」（以下、「要綱」という。）第6条第2項の規定による定足数（過半数）を満たすことを確認した。

2. 会議の公開及び議事録署名人の選任について

要綱第6条第5項の規定により、会議は非公開とし、伊藤房雄委員長及び庄子真岐委員を議事概要署名人として選任した。

3. 議事

（1）応募事業者によるプレゼンテーション

本事業募集に対し1者から応募があり、応募事業者が事業計画の概要についてプレゼンテーションを実施。

【質疑応答】

委 員 来場者数の目標を達成できなかった場合のリスクヘッジはあるか。
インバウンド対応や競合施設との差別化はどのように考えているか。
農業従事者や次世代人材の定着についての取り組みはあるか。
冬季間のイルミネーションの費用対効果は見込めるか。

応募者 来場者数目標の達成が収支目標の達成に不可欠ということではなく、多方面からの集客が重要だと考えている。新規事業により新たな客層にアプローチするなどして収益構造を見直し、来園者数の数字に頼り切らない構造としたい。
インバウンド対応として、多言語対応を強化する。地域の就農者等と直接交流する機会を提供できることが、競合施設との差別化になると考える。

農業者と連携した体験講習の実施や SNS の広報を強化することで、新たな層にアプローチでき、定着につながると考えている。

夜の花の香りを楽しんでいただくため、夏季にイルミネーションを実施している。収支としてはプラスマイナスゼロに近い。特に電気工事等で費用が掛かっている。冬季のイルミネーションの収支は厳しい。

今回、花の装飾のイベントの提案も行っている。管理研修棟等を活用し、天候に左右されないイベントやそこにしかない空間の演出を行い、インバウンドや Z 世代も巻き込みながら冬季にもセンターを訪れるきっかけ作りをしたい。

委 員 パブリックスペースプロデューサーとは地域の農業者や住民と連携しながらイベント等を行っていくのか。

農に触れるイベントは園内で実施するのか、それとも外部の農地を使用するのか。市民農園は継続使用している方が多く、一部の人のみが楽しんでいるイメージがある。今回の見直しにより、新規就農前のステップとして活用されることも期待しているが、どのように市民農園の見直しを進めていくのか、具体的なイメージを伺いたい。

応募者 パブリックスペースプロデューサーの役割は地域の農業者等との連携も含む。特筆すべき点として、地域で農に関するビジネスを行いたい人等との連携等、地域の課題を解決するために農業園芸センターがどのようなことができるのかを検討する役割がある。

農に触れるイベントについては、基本的に園内での実施を検討しているが、場所と人数が限られるため、場合によっては周辺の農家と連携し実施したい。

市民農園は継続利用の方が多く、毎年空き区画数に対し多数の応募があるため、区画の細分化を行う。農園の南側も整備する。

委 員 園外での農に触れるイベントとして、これまでどのような取り組みを行ってきたか。

応募者 近隣農家の田を借りて田植えや稲刈りを行い、その間の管理は農家をお願いしている。また、市内の高校と連携し、小学生が栽培した野菜を八木山動物園の動物の餌とし、その糞を畑に利用するといった取組等を行った。

委 員 最大の課題は集客と考える。レストランの売上が令和 9 年度に大きく伸びているが、食に関しては集客に関するインパクトがあると思うので、充実させてほしい。

沿岸部の周辺施設との連携はどのように考えているか。

応募者 飲食について、これまでも試行錯誤してきたところ。周辺の農業者と連携したうえで、野菜を使用した料理を何か提供できればと考えていえる。具体的な方策については今後の課題である。

現在海手ネットワークの構成員となっており、一つのイベントに対し周辺施設が協力できるような体制を構築している。

委 員 現在の運営において、当初想定していなかった課題や想定よりも達成できた事項はあるか。

応募者 震災前の集客数と、実際の集客数に差があった。既存の施設設備の用途が定められているため、実施したくてもできないことがある。景観の整備については事業者の裁量

が大きく、現場で思うように取り組むことができたと感じている。

委員 農と触れ合う交流拠点の事業効果として、園芸センターでの取り組みからどのように波及化効果が生まれていくかが重要であり、周辺の他施設との連携や市の農業施策との連携等についてさらに検討いただけるとよいのではないかと。

委員 ニーズをどのように捉えていくか策があるか。

応募者 一般の方が農業についてより知ろうとすることでニーズが湧いて出ると考えているため、農業に興味を持ってもらうきっかけづくりや情報発信を行いたい。

インターンや学生の生の声を聴くことで、教育の取り組みに反映していきたい。

委員 この10年の経験を踏まえ、客単価を高めるという視点を踏まえて運営いただきたい。

(2) 合議

各委員が個々の評価について意見交換を実施。

【意見交換】

委員 資金計画・収支計画について、数値の裏付けが曖昧に感じた。

委員 これまでの運営の実績を踏まえ、今後の運営について検討されていると思い、期待を込めて評価した。資金計画・収支計画について数値の根拠に乏しいと感じた。特に飲食について、令和8年度から売り上げが3倍近く増えているが、その説明が示されなかった。

委員 全体としてコンセプトが練られていると感じた。資金計画・収支計画については競合施設がどこなのか、なぜターゲットに遡及できるのかといった点が事業者側も把握できていないと感じた。環境についての配慮は取り組まれているとは思いますが、来園者へ見える化の取り組みが見えなかった。

委員 この10年間、誠実に事業に取り組んでいることを踏まえ、高めの評価とした。資金計画・収支計画が従来の延長線上だけで計画を立ててよいのか、事業計画にも意気込みを反映してほしいが、そこが見えなかった。防災や拠点Aとの連携についても、それなりに取り組んでいるところを評価した。

委員 全体的に合格水準ではないかと思い、評価した。記載が薄い箇所は評価が難しい。

委員 「農と触れ合う機能の有効性」については高評価とした。センターの立地特性上、外部と連携して取り組んだほうが施設としての発展性があると思っていたところ、農家目線で踏み込んだ計画となっていた。その他の評価項目については他委員と同意見。

委員長 各委員の意見をまとめると、最優秀提案に選定することに不適當ではないが、計画については改善すべき余地もあるようだ。

採点結果が応募者に対する本委員会のメッセージとなるよう、評価すべきところは高く評価し、不足している項目は低くするなどメリハリのある採点としていただきたい。

採点の結果、E評価のついた項目はなく、委員6名の平均点は60点を超えた。

(3) 運営事業者の決定について

委員長 採点においてE評価がなく、かつ、平均点が60点を超えており、応募者の提案を最優秀提案としてよろしいか。

委員全員の同意が得られたため、応募者の提案を最優秀提案に選定した。

上記のとおり第3回せんだい農業園芸センター拠点B運営事業者評価委員会の議事に相違ないことを証するため、ここに議事概要署名人が署名する。

令和7年10月18日

議事概要署名人 伊藤 彦 雄 

議事概要署名人 佐 子 真 岐 

以上